

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察特殊報第2号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室
T E L 0776-54-9315
F A X 0776-54-5106
E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp



福井県病害虫防除室 Q 検索

令和8年農作物病害虫発生予察特殊報第2号

クビアカツヤカミキリの発生初確認

- 1 病害虫名 クビアカツヤカミキリ
Aromia bungii
- 2 発生植物 ウメ
- 3 対象農作物 ウメ、モモ、スモモ、オウトウ、アンズ、アーモンド等
- 4 発生経過

令和8年8月、県環境部局へ県内でクビアカツヤカミキリの幼虫が排出するフラス（木くずと糞が混じったもの）類似物があるとの通報を受け、8月17日に現地調査で計9本のサクラの根周辺や樹幹にフラスを発見しました。

翌日、近隣ウメ園場において調査を実施したところ、クビアカツヤカミキリによるものと思われるフラスの排出が発見され、その周辺において本種の生きた成虫(写真1)を捕獲し、捕殺し持ち帰り確認した結果、形態的特徴からクビアカツヤカミキリ雄成虫と同定しました。

5 国内での発生状況

本種は中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部などの東アジア原産で、国内では、2012年に愛知県で確認され、令和8年に入り岐阜県、山梨県、香川県、岡山県、長野県で発見され、本県での発生は22例目となります。

6 形態

- (1) 成虫の体長は25～40mm。触角は長く、特にオスの触角は体長の1.5～2倍の長さがあります(写真2)。雌の触角の長さは体長とほぼ同じかやや長い程度です。全身は光沢のある黒色ですが、頭部と胴部の間のクビ(胸部)は赤く、前胸背板の側面に頑丈なトゲ状の瘤(コブ)一対を有していることが特徴です(写真3)。年1回、6月から8月にかけて羽化し、樹から脱出します。本種は、カミキリムシ類の中でも産卵数が多く(300個程度)、繁殖力が強いのが特徴です。
- (2) 幼虫は乳黄白色。樹木の内部で2～3年かけて成長します。その間に木くずとフンの混じった大量のフラスを穴から樹の外へ排出します。本種の出すフラスは、根元や樹幹に見られ、明るい茶色や黄土色でひき肉、かりんとう、うどんのような細長い紐状であるのが特徴で、また削り取られたような薄い木くず片を多く含んでいます(写真4)。フラスは木の株元に大量に積もり(写真5)。時間が経つにつれて乾燥してバラバラに崩れていきます。

7 被害の特徴

- (1) 幼虫による加害で、樹幹内部を食い荒らすため、被害の大きい木は衰弱し、枯死します。
- (2) 本種はバラ科樹木を加害し、国内では、ウメ、モモ、スモモ、サクラなどのサクラ亜科に属する多くの樹種で被害が報告されています。

8 防除対策

- (1) 本種は特定外来生物に指定されており、生きたまま持ち運ぶことは禁止されています。成虫を発見した場合は、その場で直ちに捕殺してください。
- (2) 本種およびカミキリムシ類を対象とした登録農薬があるので、登録を確認して使用してください（下表参照）。
- (3) 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載内容を確認して、使用基準等を遵守してください。
- (4) 被害が大きい場合、伐採し、速やかに破砕、焼却、くん蒸などにより処理してください。
- (5) 一旦侵入すると壊滅的な被害を生じさせる恐れがあるため、以下のような各種防除を同時に行ってください。

「日本の果樹と樹木を守る外来カミキリムシ総合対策マニュアル」農研機構



【成虫を確認した場合】

- ・成虫をその場で捕殺してください(再掲)。

○ウメの主な薬剤

農薬名	IRACコード	希釈倍数	使用液量(/10a)	使用時期	本剤の使用回数	総使用回数
オリオン水和剤40	1A	1000倍	200～700L	成虫発生期 (但し、収穫7日前まで)	3回以内	3回以内
スミチオン乳剤	1B	1000倍	200～700L	成虫発生初期 (但し、収穫14日前まで)	2回以内	2回以内
アグロスリン水和剤	3A	2000倍	200～700L	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
アクタラ顆粒水溶剤	4A	2000倍	200～700L	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
ダントツ水溶剤	4A	2000倍	200～700L	収穫前日まで	3回以内	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000倍	200～700L	収穫前日まで	3回以内	3回以内
アクセルフロアブル	22B	1000倍	200～700L	収穫前日まで	3回以内	3回以内
テッパン液剤※	28	2000倍	200～700L	収穫前日まで	2回以内	2回以内

※小粒核果類で登録

【フラスを確認した場合】

- ・疑わしいフラスを発見した場合、食入孔を確認し、できるだけフラスを取り除いたうえで、針金や千枚通し等で中の幼虫を刺殺します。但し、10cm以上奥に居る場合は、刺殺は難しいです。
- ・確実に刺殺できなかった場合、以下のエアゾール式殺虫剤のノズルを深く差し込み、薬液を注入してください。
- ・株元等のフラスを除去し、4mm目合いのネット(防風ネット等)を食入孔のある株元等に巻き付け、成虫の拡散を防止します。
- ・ネット巻き付け後、1日1～2回巡回し、成虫を見つけた場合は捕殺します。また、フラスが再度発生が継続している場合は、幼虫が生きているため、再度エアゾール式殺虫剤で防除します。

○ウメの主な薬剤

農薬名	IRACコード	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	総使用回数
ロビンフット	3A	樹幹・樹枝の食入孔に ノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	8回以内 (但し、噴射は5回以内、 散布は3回以内)
ベニカカミキリムシエアゾール					

※もし、対象農作物で成虫や疑わしいフラスを確認した場合は、最寄りの農林総合事務所および嶺南振興局(農業経営支援部、二州農林部)へご連絡ください(連絡先は次頁)。



写真1 クビアカツヤカミキリ雄成虫
の園地での様子



写真2 クビアカツヤカミキリ雄成虫



写真3 成虫の見分け方
(前胸背板の側面のトゲ状の瘤(こぶ))



写真4 幼虫が排出するフラス(木くずと糞が混じったもの)



写真5 被害樹の株元に集まるフラスの様子

○連絡先

部署名	電話	管轄区域
福井農林総合事務所 農業経営支援部	0776-21-8207	福井市・永平寺町
坂井農林総合事務所 農業経営支援部	0776-84-8043	あわら市・坂井市
奥越農林総合事務所 農業経営支援部	0779-65-1282	大野市・勝山市
丹南農林総合事務所 農業経営支援部	0778-23-4532	越前市・鯖江市・池田町・南越前町・越前町
嶺南振興局 二州農林部	0770-22-5027	敦賀市・美浜町・若狭町(旧三方町)
嶺南振興局 農業経営支援部	0770-56-5901	小浜市・高浜町・おおい町・若狭町(旧上中町)